

千葉県中核地域生活支援センターニュースレター

ちばの地域福祉

障害者制度改革と中核地域生活支援センター

中核地域生活支援センター「がじゅまる」
センター長 朝比奈ミカ

国連総会は2006年2月、障害者を保護の客体から権利の主体へと位置づけ、共生社会の実現を目指す「障害者権利条約」を採択しました。2009年12月、内閣府に障害者権利条約の批准を目指し「障がい者制度改革推進本部」「障がい者制度改革推進会議」が設置され、障害者制度改革が動き出しました。

その後、推進会議のもとに、障害者自立支援法にかわる総合的な福祉法制を検討する「総合福祉部会」と、障害を理由とする差別の禁止に関する法制を検討する「差別禁止部会」が設置され、議論が行われています。推進会議や各部会には、多くの障害当事者や家族がサービス事業者や運動団体、自治体首長、学識経験者等と同じテーブルについて、権利条約が掲げるNothing about us without us(私たちのことを 私たち抜きに決めないで)というスローガンを実現したかたちです。行政同様に縦割りであった民間の活動にも、権利条約をきっかけに相互にぶつかり合いながら協働し、よりよい方向を目指していく姿勢が求められています。

2010年6月には「障害者制度改革のための基本的な方向について」が閣議決定されました。障害者福祉の歴史に新たな1ページが刻まれたといえます。なかでも注目すべきは、機能的な損傷を重視する「医学モデル」の考え方を転換し、障害者が日常生活や社会生活において受ける制限は、様々な社会環境との相互作用や社会との関係性のあり方によって生ずるという「社会モデル」の考え方を打ち出した点です。制度の対象になっていなかった「狭間の問題」にも光を当てようとしており、対象を限定しない中核センターの相談支援活動のなかで受けとめてきた人たちの問題が、まさに取り上げられようとしているのです。

中核センターの「総合相談」は、住民の生活課題をどのように捉え、受け止めてきたのか。よりよい制度改革に向けて、その実績を適切に分析しながら発信していくことが求められています。

ちば・元気印！～こんなひと、見つけた～

櫻根 豊氏(NPO 法人精神保健福祉を支える会 NEW)

銚子市にある NPO 法人『精神保健福祉を支える会 NEW』理事長の櫻根豊氏は、もともと精神障害者家族会『黒潮会』の会長でもありました。銚子市に社会資源が無いという状況を打開するために NPO 法人『精神保健福祉を支える会 NEW』は 2005 年 11 月に設立されました。

「NEW は、銚子市立総合病院（当時）、保健所、市社会福祉課（当時）、家族との協働で設立しました。当時の銚子市の現状（家族の高齢化や、家族不在による社会的入院）から、『まず最初にグループホームを作ろう』という事になり、最初に『うえまっち』と言うグループホームが開設されました。実はその前に他地域での開設を計画していましたが、地域の反対運動に会い、中断を余儀なくされるという事もありました。」

2008 年 7 月に銚子市立総合病院の閉鎖が、当時の市長会見により発表されました。

「実は、市立病院の閉鎖とは関係なく、『訪問看護ステーション NEW』の準備を進めていました。これは県で、精神科の訪問看護を薦める方向でいたからです。そんな中、市長による突然の病院閉鎖の会見が行われました。当時、銚子市内の精神科病院は市立病院しか無く、40 名弱の入院患者、1200 名の外来患者の継続医療が担保されていなかったのです。これらの人々には近隣の精神科のリストを渡し、どこを受診するかは自己選択するという状況でした。このような状況から家族会は市長へ要望書を提出、千葉大も『看過できない』と、10 月 1 日から病医院跡地を利用した診療所が開設されたのです。」そして約一年後の 2009 年 7 月に銚子こころのクリニックが開設されました。

「現在の銚子市の課題として入院施設が無い事と夜間の救急対応の不備が挙げられます。これらを解消する手立てとして、昼間の居場所の充実が必要と考えました。NEW では地域活動センターを持っていますが、より自由で気楽に使えるように『べ～ぼ』を開きました。こちらは活動プログラムが無く、本人の自主性に重きを置いています。また、入院の前段階のための入所施設としてクライシスハウスが必要と考えています。24 時間 365 日、専門職の配備が要りますが入所状況が予測できないために、運営補助金が担保できません。しかし資金問題で先延ばしできないので、暫定的にグループホームの試泊用の空き室を確保し、必要時のみ専門職を配置する方法を考えています。平成 20 年 9 月から銚子海匠マジソン事業を始めました。これは入院回避に有効な ACT-J をモデルにしています。病院頼みだけでなく、自分達でこの地域の精神保健福祉を何とかするんだという思いで、医療・福祉・行政それぞれの立場でやるべき事を行う新しい銚子型 ACT を目指します」

NPO 法人 精神保健福祉を支える会 NEW

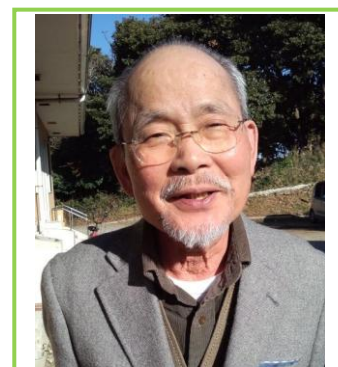
事業所の所在地 ■〒288-0022 銚子市小畑町 7307-6

電話・FAX ■0479-24-5458

訪問看護ステーション NEW

グループホーム うえまっち、ひまわり荘、小川町ハウス

地域活動支援センターⅡ型 しおさい春日、しおさい三崎





ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

[千葉県] 防災ポータルサイトとちば防災メールについて

防災ポータルサイト PC版 <http://www.bousai.pref.chiba.lg.jp/portal/>

防災ポータルサイト 携帯版 <http://www.bousai.pref.chiba.lg.jp/portal/mobile/index.jsp>

これらのサイトは、防災情報や緊急ニュース、交通情報などを知る事ができます。

ちば防災メール (b@bousai.pref.chiba.lg.jp) まで、空メール(件名・本文無記入のまま)を送ると、折り返し、登録用のURLを付加したメールが返信されます。配信される内容は、①大雨・洪水などの気象情報の発令と解除、②県内における震度3以上の地震が観測された際の、震源震度に関する情報、③千葉県内に発令された津波の情報、④台風情報・東海地震情報・県からのお知らせ、です。

※ 注意

- 登録は無料ですが、通信に伴う費用は個人の負担となります。
- 配信は、24時間対応です。状況によって夜間にメールの配信が行われることがあります。
- メールは、「bs_bm_a@bousai.pref.chiba.lg.jp」から配信されます。
※携帯電話にて受信拒否の設定を行っている方は、上記ドメインからのメール受信許可をお願いします。
- 利用規約、免責事項をお読みの上、ご登録ください。

上記内容についてのお問い合わせは、千葉県総務部消防地震防災課 (info@bousai.pref.chiba.lg.jp) まで。

[千葉県] 千葉県のホームページに『チーバくんの広場』ができました！

ちば国体でおなじみの『チーバくん』が、今年の1月から千葉県のマスコットキャラクターになりました！

『チーバくんの広場』では、チーバくんの活躍ぶりが見られる『チーバくん日記』を読んだり、チーバくんの折り紙・パソコン用壁紙・ぬりえをダウンロードする事ができます。

URLは、<http://www.pref.chiba.lg.jp/kouhou/miryoku/chi-ba-kun/index.html> です。

イベントなどでチーバくんの着ぐるみの貸出しも無料で行っています。

チーバくんに関するお問い合わせは、

総合企画部報道広報課千葉の魅力発信室まで

電話：043-223-2242 ファクス：043-227-0146

ぼく、
チーバくん！
よろしくね♪



わたしの町の中核地域生活支援センター

里親家庭をとりまく地域支援ネットワーク構築モデル事業に取り組みました

がじゅまる（市川圏域）

▽親元を離れる障害児に家庭的な環境を

「障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会」（以下、GH学会）では、障害のある子どもたちが親元を離れざるを得ない時に家庭的な環境を保障したいと、里親家庭への支援の取り組みを始めていました。具体的な地域レベルでの連携体制づくりを市川でという要請を受け、市川児童相談所管内（市川市、船橋市、浦安市、鎌ヶ谷市）で活動する、「ふらっと船橋」「なかまネット」にも協力を呼びかけ、GH学会、里親会市川支部、千葉県里親家庭支援センター、中核センターによる「千葉会議」が発足しました。

▽里親家庭はさまざまな悩みを抱えている

里親制度は都道府県の事業です。里親は居住地の児童相談所のフォローを受けますが、里子のことは子どもの出身地の児童相談所の指導対象となります。里親会懇談会への出席、アンケート調査などを通じ、里親家庭がさまざまな問題で悩んでいることがわかりました。実親と安定した関係を築けなかった子どもが見せる感情の不安定さや、ひきこもり、浪費や夜遊びなどの行動への戸惑い、子どもへの告知、実家への説明、レスパイト、子どもの自立、日常的な悩みを話し合える場、等々。その内容は多岐にわたります。

▽地域交流イベントの開催

2011年1月22日（土）には、市川児童相談所の協力のもと「子育ての悩み、里親の悩み、話し合ってみませんか？～地域とのつながりのなかで」と題したイベントを開催しました。当日は、児童相談所、恩寵園（児童養護施設）、八幡学園（障害児施設）に参加を呼びかけて、グループワークを行ったほか、市川市須和田の丘支援学校・稲原美恵子先生に「発達の気になる子への理解と対応」と題した講演をお願いし、里親家庭が日常で抱える悩みにできるだけ応える企画を心がけました。

今後ともこの取り組みを進めていきます。



発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：すけっと（印旛圏域）佐倉市鎌木仲田町9-3 TEL:043-483-3718 FAX:043-483-3719

編集：海匠ネットワーク（海匠圏域）旭市イの1775 TEL:0479-60-2578 FAX:0479-60-2579

※内容についてのお問い合わせは、海匠ネットワーク（担当：^{くらた}藏田）までお願いします。